



TITLE:

タンパク質修飾による細胞死誘導複合体(DISC)の形成に関する制御機構の解析

AUTHOR(S):

李, 慶權

CITATION:

李, 慶權. タンパク質修飾による細胞死誘導複合体(DISC)の形成に関する制御機構の解析. 2004

ISSUE DATE:

2004-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85025>

RIGHT:

学術雑誌掲載論文の抜き刷り、出版社に著作権許諾が得られていないため未掲載。

タンパク質修飾による細胞死誘導複合体 (DISC) の形成に関する制御機構の解析

課題番号 14599004

平成14年度～平成15年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書

京 都 大 学 図 書



1040946666

附 属 図 書 館

平成16年 6月

研究代表者
李 慶 權
(京都大学生命科学研究科)

研究組織

研究代表者：李 慶權 (京都大学生命科学研究科)

研究分担者：米原 伸 (京都大学生命科学研究科)

交付決定額(配分額)

(金額単位：千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 14 年度	1, 8 0 0	0	1, 8 0 0
平成 15 年度	1, 2 0 0	0	1, 2 0 0
平成 年度			
平成 年度			
平成 年度			
総 計	3, 0 0 0	0	3, 0 0 0

研究発表

- (1) Takeshima K., Chikushi A., Lee K. K., Yonehara S. and Matsuzaki K、Translocation of Analogues of the Antimicrobial Peptides Magainin and Bufarin across Human Cell Membranes Translocation of Analogues of the Antimicrobial Peptides Magainin and Bufarin across Human Cell Membranes、Journal of Biological Chemistry, 21・2, 1310—1315, 2003
- (2) Lee, K. K. and Yonehara, S、Phosphorylation and dimerization regulate nucleocytoplasmic shuttling of mammalian STE20-like kinase (MST)、Journal of Biological Chemistry, 277・14, 12351—12358, 2002
- (3) 李慶權、米原伸、Fas の機能とシグナル伝達機構、実験医学 (増刊) 72—76, 2003 年